私たちは 生活学校で 研究しています

新生活運動協会は、総理府の外かく団体で、民間の自主的な運営で四つの事業をしています。

その中の一つ「生活学校運動」とは、次のことを主旨としています。すなわち私たちは、毎日の暮しの中で、いろいろな品物を消費していますが、それらの商品は、果たして適正な価格なのか。私どもの必要をみたしてくれるものだろうか。品質はどうか——など、いろいろな疑問や不安があります。生活学校は、このような商品やサービスについての疑問や不安などを取り上げて、問題を解決する運動なのです。そして、その運動の独得なしくみが「生活学校」です。

「生活学校」のしくみは、主体メンバー…主催者である私たちです。他に補佐メンバー、専門メンバーがあり、活動の中心は、対話集会と事前活動にありますが、対話集会を効果的にするために、事前活動が大切なわけです。

これは、主体メンバーが日ごろ困っていること。実際におこっていることについて問題の所在を具体的にしておくことです。

私たち生活学校では、今年は医療問題にとり組んでみることにしていますが、他に洗剤をもっと深くほり下げてみる。衣料加工剤も同様、料理講習、福祉施設の見学などの事業も計画しています。自主的な活動ですので、道はけわしいけれどやりがいもあるものと信じています。

入会は、いつでも自由で、年間の会費は五百円です。入会をご希望のかたは、いますぐ公民館の方へ申し込んでください。大いに歓迎いたします。そして、いっしょに研究してみようではありませんか。

（南雲ハル…秋葉一）

古今川柳漫歩 (15)

吉原の子（ね）の刻

阿達義雄

「子（ね）の刻」というのは、今の夜の十二時である。この子の刻を詠んだ句に、

●えりっくずはや子の刻におよぶなり（二〇6）

●夜な夜なに子の刻を待つ安女郎（八六2）

これ等は江戸吉原の張見世女郎を詠んだ句である。

吉原の夜の張見世の時間は、暮六つ時（午後六時）から、夜の九つ時（十二時）迄となっており、この間、花魁（おいらん）等は、格子の内に並び煙草などを喫みながら、遊客が自分を見立てて、登楼してくれるのを待っていた。

すなわち「子の刻」は夜の九つ時であるから、張見世を引きあげる最後の刻限であった。

花魁は張見世をしていても、客の見立てに漏れれば子の刻——九つ時迄六時間の間つくねんとして、当てのない客待ちをしながら坐っていなければならなかった。

傍の朋輩は客に見立てられて、次々と張見世を引いて行く。それを横目で見ながら、心をじりじりさせて坐っていなければならなかった。

このように売れ残りの花魁は、廓（くるわ）全体の見世仕舞の時間、すなわち子の刻迄、空しく見世の曝し物となっていた。

それで、前の句の「えりっくず」というのは、選び残された屑のような女郎の意味であり、後の句は、毎晩売れ残りとなる、お茶挽きの安女郎が、どうせ売れないのだから引け時の子の刻ばかりを待っているというのである。

子の刻は九つ時（夜の十二時）であるが、四つ時と言えば今の十時頃のことである。吉原では、世間で言う此の四つ時のことを鐘四つと言って「引け四つ」と区別していた。

吉原で「引け四つ」というのは、世間一般の四つ時とは違うので「木の四つ」「後の四つ」「嘘の四つ」などとも言われ、実は世間の九つ時、即ち、子の刻（夜の十二時）のことで、張見世を引く時刻になっていた。したがって、世間の四つ時（午後十時）と比べてみると今の二時間の掛け値があった。

店者は主人持ちであるから、廓（くるわ）の出盛り時には遊ぶことができなかった。それで、店をしまって、四つ時（午後十時）頃から出かけるのが例であった。四つ時過ぎてから出かけたのでは、日本堤の土手八丁を、四つ手駕籠で飛ばせたとしても、吉原に着く頃には見世の引け時近くになってしまい、その頃迄売れ残って張見世をしているような女は、どうせ「えりっくず」ばかりであった。次の「引け四つもの」とは「えりっくず」である。

●番頭の無念引け四つものを買ひ（一二42）

●番頭は子に行き寅に帰るなり（四六19）

奉公人の悲しさに、番頭は、ひそかに抜け出して、人の寝しずまる頃（引け四つ＝子の刻＝夜中の十二時）に、漸く廓（くるわ）に着き、売れ残りの安女郎を揚げ、そして朝は朝とて、未だ夜の明けない寅の刻（午前四時頃）に帰り、知らぬ顔の半兵衛をきめこんでいなければならなかった。

（新潟大学名誉教授）

SONY パイオニア のコンポ
新製品続々入荷
ソニーとステレオ専門の店
オーディオまるよし
新津市本町1丁目(駅前通) TEL 2 1898

Nikon F2 Photomic
ニコンカメラ販売店
カメラのサカヅメ
本店 新津市本町4丁目5－6 TEL (代)(2)0045
新町店 新津市新町1丁目2－29 TEL (2)2484